

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100056		
法人名	たけのこ株式会社		
事業所名	グループホーム佐尉郷の驛		
所在地	大分市大在中央2丁目8番11号		
自己評価作成日	令和4年4月15日	評価結果市町村受理日	令和4年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100056-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	令和4年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者が穏やかで安心して生活できるよう支援していき職員も笑顔と心のこもったケアの提供・それぞれが力を合わせ信頼にお応えし認知症ケアについて学び努力向上に努めていきます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は主要道路から近く、住宅地と商業地域の中心に位置しています。同敷地内には有料老人ホーム、デイサービスが併設されています。理念にある「住み慣れた地域で」、「大在の住民」を大切にしたい支援への取り組みに努めています。事業所が重視している「地域との繋がり」では、施設の敷地内に「食堂」がオープンしました。地域の婦人会のメンバーを中心に「昼食・夕食」を作っています。地域との繋がりを大切にしたい支援に取り組まれていることが伺えます。利用者も、事業所から外に出て3メートル離れた食堂に行くことで、外の空気を吸う事ができ気分転換に繋がっています。綺麗な食堂には近隣の方が描いた四季折々の絵やジグソーパズルを飾っています。それを眺めながらの食事に、食欲がわいています。利用者は、比較のお元気な方が多く、携帯電話を持ち込まれています。県外に家族が住まわれている方には、動画を送り利用者が穏やかで安心して生活している姿を見て頂いています。地域の方との連携と職員の笑顔・心のこもった支援への取り組みが行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が自覚して実践できる様に努めている	月1回の会議の中で、職員全員で理念を唱和しています。日々の支援の中で一人ひとりが理念について振り返り、実践に繋げて行けるように取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為訪問などはお断りしています	コロナ禍の中での訪問は、極力最小限に留める対応を取っています。近隣の方が描いた絵やジグソーパズル等を定期的に持参して頂き、事業所のフロアや食堂に飾る事で、地域の方との交流を絶やささないよう努めています。	敷地内に「食堂」をオープンしています。毎日地元の婦人会の方が取り組まれています。地域の方々の繋がりを大切に支援への取り組みに今後も期待が持てます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今、月に一度マルコポーロという地域誌に施設の情報や介護支援法などを記載している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の有識者の方々に頂いた助言、ご指摘をスタッフ会議で報告し協議を行っている	コロナ禍の為、運営推進会議のメンバーの方には書面で協力頂いています。助言や指摘が上がった件については、会議で報告を行っています。職員全員でサービスの向上に繋がられるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いてる他、電話などで助言を頂いている	市の担当者には些細な事やわからない事など、気軽に相談できる関係を構築されています。地域包括支援センターの方と、空室情報や入所者の紹介・依頼等について常に連携が取れる体制が整っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」を前提として職員などに伝えている月に1回会議の席でも「身体拘束」にはならないか確認をしている	月に1回の会議の中で、研修の機会を持ち拘束についての理解を深めています。言葉かけや職員の支援の方法など適切に行われているか等を話し合い、職員間で拘束についてより深く学び研鑽に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で定期的に勉強会などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方が入所した際に担当スタッフ等と勉強していきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項、説明所などについては納得して頂けるまで分かりやすく説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見はその日のうちに職員に通達している。対応が必要な場合は会議で検討している	利用者が職員の方に、意見や要望を伝えることが出来る環境を整えています。コロナ禍の前までは、運営推進会議に利用者が出席する機会を設けていました。家族から携帯電話を持たせたいとの要望に応え、操作出来るよう橋渡しを行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案はしていますが、反映は全部はしていない	管理者と職員は、業務のやり取りの中やミーティング等で、話し合う機会を設けています。認知症について、研鑽して行きたいとの職員の思いや希望が出ています。管理者は職員との意見交換を行い、出来るだけ職員の意見を反映出来るよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に向上心を持って働けるよう職員環境条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から先生を招いて色々な研修会など実践したいがコロナ禍の為、出来ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を行いたいがコロナ禍の為、出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入口のプレハブで初期の面談をするようにしている。またプライバシーを保護し安心して話せるように心がけている		
16		サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のご家族様には施設から「心配事は無いですか？」声掛けし、また家族への手紙を毎月送付して報告している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用も含めて検討しており同じ敷地内に有料老人ホームやデイサービス等があることも説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援でおやつ作りなどができる様に参加して頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の好みを聞くなどまた電話にて連絡を取ることもある。病気で受診する際には必ず連絡している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為外出できないが会話に織り込む等して大切な人や場所を思い出せるように常に心がけている	馴染みの場所へ、外出や訪問が出来ない状況ですが、手紙や電話を利用し家族や知人との関係性を大切に、支援への取り組みを行っています。今後は、状況に応じて美容院への利用再開を視野に入れていきます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席を決める際にはグループワークを考慮している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折に触れて相談や支援の継続を伝えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様より希望要望は聞き取り利用者様の思いやストレンクスをケアプランに反映している	日常生活の会話の中で、利用者の思いや希望を聞き取っています。家族の了解が必要な時は、家族と連携を取り思いや希望を大切に、その人らしく過ごせるよう取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症のある中で色々な面で困難なこともありますが出来るだけ昔の話をするよう考慮しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有を行っている。普段と違う時には日誌や記録したり申し送りに記載している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の課題、家族の思いなどを職員で情報共有して聞き取りなど行い、介護プランに反映している	ケアマネージャーが介護計画を作成し、6ヶ月ごとにモニタリングを行っています。利用者が、持っている能力を落とさないよう日々の生活の中で観察しながらストレンクスをケアプランに取り入れた介護計画書となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に様子や発した言葉表情など気づいた点を記録して職員間で共有し実践に活かせるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のレク、外出支援・買い物支援・訪問美容などできるだけサービスが受けられるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に出かけたり慰問コンサートの人たちに来ていただいたり安全に楽しむことができる様努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の事は入所の際に確認し本人の希望している病院の利用が出来る事は伝えている。また、ご家族が付き添うなど支援も行っている	入所時、利用者・家族との話し合いにより今までのかかりつけ医の継続希望があれば、対応を図り事業所の協力医との連携のもと支援を行っています。通院は、家族が同行出来ない時は、職員による通院支援をして結果を家族にお伝えしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で入所者様の発熱時異状があれば看護師に伝えて主治医と連携し適切な指示を頂き受診に行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は必ず職員が付き添い医療関係者と情報提供を行いスムーズに退院ができるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族はじめ医療機関と相談してご本人様とついでいい方法を検討し支援している	入所時、利用者・家族と話し合い、重度化した時事業所としてどこまで対応できるか、意思の確認と不安への対応を汲み取り、書面による確認をしています。終末期は、泊まり込みで看取りを希望する家族に、寝具や部屋を提供して支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを掲示してい。年に数回の訓練・勉強会を実施している。職員に消火器の設置場所の確認、使用法の実践を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火法に基づいた訓練と避難訓練を定期的に行っている。運営推進会議で有事の際は地域の協力をお願いしている	避難訓練は定期的に行い、災害時における利用者の安全を重視した避難誘導が行えるよう、職員全体で共有する事に努めています。地域との協力体制を構築できるよう運営推進会議で有事の際、昼夜を問わず対応できるよう話し合いをしています	防災訓練の実施計画や手順書の作成など、災害の発生を想定した避難誘導訓練を安全管理措置を徹底した上で、職員と利用者が一緒に行えない時は、職員が利用者の役割を果たして、避難誘導訓練を行えるよう希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーが守られるように更衣、排出介助、入浴介助の際は出来るだけ外部から見えない様に介助しプライバシーが守られるように配慮しています	利用者に対しての言葉かけは、丁寧な言葉遣いをするよう心掛けています。トイレ介助や入浴介助のときは、特にプライバシーを守れるよう配慮した支援に努めています。利用者の様子や声のトーンで、席替えを提案する等想いを受け入れ、個別対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間帯や家族の面会時等のゆったりしたときに声掛けを行い本人の意思や希望等を聞き取りしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の生活の流れの中で一人一人の希望に沿って過ごして頂くことは難しいが本人の思いに寄り添った支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の前準備時に本人の確認を行い職員と一緒に洋服のコーディネートを考えたり本人好みの服を選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	和やかな雰囲気づくりを心がけて軽音楽・テレビをかけたりお互いに座る席が安心して頂けるよう配慮している。片付けも手伝いして頂いてる	朝食は、共用空間で盛り付けや食後の片づけを手伝って頂くことがあります。昼食・夕食は、敷地内に新しく設置した食堂で地域の婦人会等の協力が得られ、季節ごとの郷土料理を味わえる楽しい時間となっています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、見た目、量なども考慮した献立を考えて作っている。水分量も一日1000ml等取って頂く様支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けや歯磨きの介助を行い定期的に訪問歯科を利用している方もいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要な利用者様には声掛けや誘導を行い自力で排泄が出来る様に支援している	トイレ介助は、長時間訴えない利用者は、声掛けて自力排泄が出来るよう支援しています。オムツ使用の利用者はほとんどおられないので、昼間はドアの外で待機してパット交換や必要が生じた時に対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに摂取して頂き体を動かし運動などで排泄がスムーズになる等働き便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の体調、気分、様子、バイタルチェック等を見ながら声掛けして安全に入浴を楽しめる様に支援している	通常は一人30分で、週に二回昼食までの時間に入浴して頂いています。拒否や気分が乗らない時は、シャワー浴や部分浴をお勧めして、清潔を保てるよう支援しています。	利用者本人の意向に添った入浴支援が継続して行えるよう、拒否の多い男性利用者は男性職員が入浴介助を行う事で、個々に添った支援が出来ることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調や様子を見ながら昼寝を促したり各居室で安心して静かに休息出来るように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は職員が声掛けやちゃんと飲み込むまで確認を行い効能については聞かれたら分かりやすく説明している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の出来る範囲でお手伝いして頂き得意・不得意の考慮もして楽しめる様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のなか、外出などは困難なため外出も面会もお断りしている	コロナ禍のいま、家族による面会や外出が出来ませんが、室内での多くの時間を過ごす共用空間で携帯電話やスマホを持っている利用者は、家族と電話での会話を楽しんでいます。最近では、花見の時期に感染予防を徹底して、植物公園に短時間の外出を行い喜んで頂きました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当苑では紛失防止の観点からご利用者様の所持金は「預り金」として事務局で一括管理している。本人が必要なときに出金している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話は取り次いでいる一部の利用者様は携帯電話を所持しており時々自室にて電話されている。手紙も自由に遣り取りできる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングは明るくゆったりした作りになっています。壁に利用者様が作成した絵や飾り物が飾ってあります。出来るだけ季節の物を飾っています	1日の大半を過ごす共用空間では、生活感や季節感を五感で感じられ、ソファ等を利用者が便利に使えるよう配置しています。地元の人から、昔懐かしい風景を日本画風に描き出した版画を頂いたので、利用者に喜んで頂けるよう季節ごとの絵を壁面に飾る予定です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に置いてあるものは本人様が馴染んで使い慣れたものを置いています。心地よく快適に過ごせるように努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が選んで使い慣れたものを居室に置いています	利用者の居室の入口付近に、識別しやすいよう名前や目じるしになるよう品物を配置しています。居室内には、使い慣れたものや好みの家具の持ち込みも自由で、利用者が居心地良く過ごして頂けるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様には常に声掛けや見守りを行っている。自力で行動できる利用者様も必要に応じて声掛け、見守り介助を行っています		